
ボンゴレ式 やりましょう

明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボンゴレ式 やりましょう

【Nコード】

N9365Z

【作者名】

明

【あらすじ】

原作から十年後。綱吉は正式にボンゴレのボスに就任し、毎日忙しい日々を送っていた。いつもいつも面倒事はかり起こしてくれやがる守護者と相談役のリボーンは今日も元気にハチャメチャやっています。

そんなとき、リボーンが怪しい顔をして提案をする。それは過去にもやった事がある《ボンゴレ式》と付く遊びだった。

ボンゴレ式鬼ごっこやりましょう・1

「で、何りポーン。俺今忙しいんだけど」

イタリア、ボンゴレ本部の最上階にある執務室。その部屋のさらに奥にある部屋のソファで寛ぎながら、青年は一枚の書類に目を通していた。

その部屋には彼の他にもう一人。扉付近の壁に寄り掛かっていて、全身を漆黒で染め上げたもみあげが印象的な現在のボンゴレの相談役を務める男がいた。

綱吉はいつもの様に唐突に現れたりポーンを意にも返さず、黙々と溜まっている書類に慣れた手付きでサインをしていく。

彼が部屋を訪れてから5分後、綱吉は目も向けずにリポーンの気配のある方へ声をかけた。

ニヤリ、そう形容されるような気配がリポーンから漏れる。

綱吉は超直感でも何でもない、長年の勘から悟った。

(またこいつは碌さくでもない事を考えてやがるな)

その考えは見事にヒットした。

「ボンゴレ式鬼ごっこをやるぞ」

「却下。」

即答で返してやったにも拘わらず、言われた本人は全く気にしていないようだった。

「お前の元先生でもある俺様がやるつつってんだ。言う事聞けダメツナが」

「そのダメツナに雇われてずっと此処にいるのは何処の誰だっけ？」

「ハッ、誰の事を言ってるのか知らないが俺は今でもフリーの殺し屋だぜ？」

「へえ、それは知らなかったよセンセ？」

書類から目を上げ、皮肉気に綱吉はリボーンへと視線を移す。

その顔は、こんな忙しい時期に面倒事増やしてんじゃねーよ、と一見穏やかに笑う顔は冷たく語っていた。

今ボンゴレは春から受け入れた新人隊員のヴァリアーでの研修が終了し、各隊に残った奴らを振り分け（途中でお亡くなりになった者や逃亡した者、強制的に解雇された者などもいる）、ボンゴレ内でも人事異動や隊の編成など色々と面倒な事を行っている真つ最中であつた。実際にやるのは獄寺ら守護者の隊長たちのだが、それについて会議をし、指示を出し、報告書にサインをし。ついでにいつものボンゴレ上層部の古狸たちの相手も忘れず。

正直ボンゴレが、というか綱吉が一番忙しくなるのはこの時期だつた。

「まあ聞け。お前にはもう悪い話じゃねえ」

その顔を見てリボーンはさらに笑みを濃くする。

「これは唯の鬼ごっこじゃねえ。《ボンゴレ式》鬼ごっこだ」

「全部に《ボンゴレ式》って付けても良い事ねえだろ。実際10年

前のアレは全っ然良い事無かったし」

昔やらされた『ボンゴリアン・バースデー・パーティー』を始め、
『ボンゴレ式ファミリー対抗正月合戦』や『ボンゴレ式修学旅行』
など『ボンゴレ式』とついて良かった思い出が微塵もないと思う。
独り言のように言っているがそれは職業柄聴覚が良いリボーンの声
にも届くような声量に調節しており、しっかりと聞こえているがリ
ボーンはそれをさらりと無視して話を続けた。

「ルールは普通の鬼ごっこことほとんど変わらねえ。唯一の違いは鬼
が複数、という事だ。鬼は逃亡者を捕まえれば勝ち。逃亡者は鬼か
ら逃げ切れれば勝ち。簡単だろ？ちなみに武器は全部使用可能だ」
「もしかして？バーナーも使用可能？」

伏せていた顔をふっと上げ、綱吉はリボーンに問う。その答えは勿
論是。

「賞品は何だと思う？」

「さあね」

「教えてやろうか」

昔から変わらない勿体振る口調に軽くイラッときながらも綱吉は知
りたい知りたいと棒読みで言う。

「それは『何でも一つ、好きな事ができる』だ」

綱吉はその言葉に一瞬キョトンとした表情を浮かべた。

「なんだその顔は」

「いや、別に…ちよっと意外だっただけ」

綱吉は賞品は絶対リボーンに興味で決められていると思っていたため、『好きな事』と聞いて一瞬呆けてしまった。例えば、綱吉に無理やりメイド服を着せようとしたり（しかもめっちゃミニスカのやつ）、自分用の手足になる奴隷を要求したり（書類をやらせたり召使いにしたりするため）、はたまた普通に金、またはストレス発散用の殲滅任務を要求してきたり。因みにこれはすべてリボーンが実際に言った事だ。

「勿論ボンゴレ式だからな。言われた願いはどんな物でもボンゴレが責任を持って遂行するぜ」

（……思い出すだけでげんなりしてきた……。けどまあ、丁度みんなピリピリして息抜きが必要だと思ってたところだったし）

「分かったよ、許可する。後でプラン提出して」

「了解、ボス」

そう言って後ろ手を振りながらリボーンは去って行った。

- - - - -

翌日早朝

「おい起きろダメツナ」

「……ん……、うっさいリボーン……昨日遅かったんだから朝くらいゆっくり寝かてよ……」

リボーンは無断で綱吉の私室に入り、その家主はキングサイズのどデカイベッドですやすやと眠っていた。真っ白の枕には長めのハニーブラウンの髪が散らばっており、その姿はまるで子犬。駄々っ子のようにコロコロとベッドの上に寝返りを打つ綱吉にリボーンはガチャリ、と銃を突きつけた。

「俺の知った事か。早く起きねえとお前に頭風通し良くすんぞ」

バンツ！ ボスツ

リボーンは容赦無く至近距離で発砲するが綱吉はそれを少し頭をずらして避け、銃弾は白い枕に穴を開けた。

「だから寝かせろって…」

「ほお…？あの距離の銃弾を避けやがるか、ダメ生徒の分際で」

ボルサリーノの影で見えない瞳がキラリと光り、唇はゆっくりと弧を描いた。

これ以上やったらこの部屋は良くても半壊すると思った綱吉は渋々ベッドから起き上がる。

「で？何の用だよりボーン」

「チツ、起きやがったか。まあいい、受け取りやがれ」

本当に残念そうなりボーンに綱吉は溜め息を吐いた。リボーンが差し出したのは一枚の紙。

「何これ」

「あ？お前が出せつつったんじゃねえか。鬼ごっこのプラン。」

「…この書類を何処からどう見ればプランって言えるのか俺は知りたいよ」

その紙はほとんど白紙状態。書いてあるのはたった3文のみ。

1文目：ボンゴレ式鬼ごっこは基本的に何でも有りで期間は3日。

2文目：責任はすべてボンゴレ十代目相談役リボーンが負い、願いはボンゴレの力をすべて使っても必ず叶える。

3文目：直筆サイン

「せめてもう少しちゃんと書いてくれよ…」

「めんどくせえ」

プイと子供の様にリボーンはそっぽを向いた。

「確実に渡したからな。あと今日詳しいルールとか説明するから全員集めとけ」

「はいはい。分かったから早く行け」

口を手を当てて大きな欠伸をしながらひらひらと受け取った紙を振った。

- - - - -

「ってわけで鬼ごっこやるぞ」

午後。集まった守護者たちへとこの事が伝えられた。

反応は人それぞれ。楽しそうだなといつも通り笑う者があれば、興味無さそうに外を眺めており聞いているのかも怪しい者や「愉しそ

うですね」と言った口が露骨に妖しく笑っている者もいた。

「3日、ですか。しかしその期間の業務は溜まる事になりますよ？」

「終わった後死ぬ気でやりやがれ」

「極限楽しそうだな！！」

「麦子ヨコ食べたい……」

「興味無いね」

「待てよ雲雀」

立ち去ろうとした雲雀をリポーンは呼び止め、ニヤリと笑った。

「この賞品を使えば本当に何でもできるんだぜ？」

「何でもって？」

「そりゃあ何でもだ。例えばツナと戦ったりスクアール……ヴァリアーの雨の守護者がやった剣帝への道みたいなのをやってもいい。とりあえず様は全ての願いが合理化でき、確実に実行できるってことだ」

8

雲雀はリポーンの言葉で足を止めた。

綱吉は何時も面倒臭いという理由で雲雀からの試合シムツクの誘いを断り続けていたからこれが絶好の機会。

願ってもない。

「で、いつから始めるの」

「明日の正午からだ」

「そう」

そう言って雲雀は本当に部屋から立ち去った。さっきまでは無かった笑みを浮かべて。

ボンゴレ式鬼ごっこやりましょう・1 (後書き)

なんだこのグダグダ感は…！

一応これでも1ページにしたかったんですが纏める力が皆無の私には無理でした。はい。

もう少し続くので続きも読んで頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9365z/>

ボンゴレ式 やりましょう

2011年12月29日10時49分発行